
俺が理想の主人公 -魔術と科学編-

いおんいおん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺が理想の主人公 - 魔術と科学編 -

【Nコード】

N9247Z

【作者名】

ふぉんふぉん

【あらすじ】

他人を庇ってテンプレ的に死んでしまった主人公が、テンプレ的に神っぽいやつに会って、テンプレ的に転生、憑依、などするお話。

転成、憑依するにあたって主人公は力をもらった。
そしてもらった力とともに様々な世界を生きていく物語。

当作品はその第一世界です。

プロローグ

「やっとここまで来たか。いや、長かった、ホントーに長かった。はあ…。」

その少年はそんな言葉とともに溜め息を吐いた。

溜め息はいままでの苦勞を語るかのように深く、重いものであった。

「でも、ようやく始まるんだよな。」

そのように独り言をつぶやく少年がいるのは「学園都市」と呼ばれる場所である。

「学園都市」とは人口東京西部に位置し、東京都のほか神奈川県・埼玉県・山梨県に跨る完全な円形の都市。

総面積は東京都の約3分の1に相当する巨大都市で、総人口は約230万人。

そしてその8割は学生によって構成されている。

外周は高さ5m・厚さ3mの壁に囲まれ、完全に外部と隔離されている。

そしてこの学園都市において学生たちが行っているのは、能力開発である。

「ここでどんなふうにやっついていこうかな。並行世界というからにはあいつに言われたとおりには違いはあるんだろうけど…まあ、そんなことは今はいいか。」

少年からつぶやかれた「並行世界」という単語が、この少年が普通でないことを物語っている。

「それにあいつもいつてたしな、楽しんで欲しいって…」

あいつというのどこか遠い所にいる人物というよりは、もっと別の何かを感じさせるような口ぶりであった。

「…まあ、こんなことごちゃごちゃ考えてたら楽しめるものも楽しめないよな。やっぱ自分が思うままに過ごさないと…」

そうつぶやくと少年は学園都市の町を歩き始めた。

その表情にはこれからへ期待のためか、満面の笑みであった。

この少年、旧名、ひのい日野井 けい慶は新しい道を進み出した。
これからの未来に胸躍らせながら…上条当麻として。

プロローグ（後書き）

初めまして、ふぉんふぉんと申します。

いままでは作品を見る側だったのですが、今回、自分の作品を投稿させていただきました。こんな駄文でも楽しんでいただけたら幸いです。

さて、今回はプロローグということで結構短めにいたしました。

ですがこれはこの作品の導入ということで主人公がこのようになつたあらすじを次回、プロローグ2という形で投稿したいとをもちます。

このあとの続くもなるべく早く投稿いたしますので今後とも宜しく願います。

プロローグ2

side:当麻(慶)

やあ皆さんどうも。わたくしは旧名、日野井(日野井) 慶^{けい}こと
現在は上条当麻と申します。

自分この世界に来てから15年、ようやく学園都市に来ることが
できたわけです。

これまでのことを思い返してみると、いろいろ苦労したな〜と思
います。

なにがあつたかと言いますと右手が原因で発生する不幸の数々。
同年代のやつからはいじめのような物を受け、その親たちからも
軽蔑の視線を受け、その他にも数えきれないほどの嫌がらせを…と
いう具合に本当にろくなことがなかった。

だがそれもここに来たことで無くなる。なぜならこの学園都市は異^{アブノ}
常^{ノーマル}こそ普通だからだ。

アブノーマル万歳!!! 最高???

……調子こいてすみませんでした。

さて、そんなことはとりあえず一旦 SO・GE・BU しておいきましよう。

ところで、画面の前の皆様にはなぜわたくしが上条当麻になっているか説明してませんでした。

サーセン。

というわけでここで一度、回想をした方がいいんじゃないかなろうかと思えます。

え？そんなのめんどくさい？プロローグ二回もやってんじゃないかって？

ハッ、いいぜ、お前らが回想も見ずに本編を読もつてゆーなら、

まずは、その幻想をぶち殺す！！！！！！

はい、つーわけで回想です…

…
…
…
…

「あれ、ここどこだ？」

俺が気がつくところにはどうにも見覚えのない場所だった。
周りを見渡しても白一色。上下前後左右、すべてが真っ白。

というか、こんなとこに見覚えのあるやつなんかいないんじゃないかな
いかとすら考えてしまうほどだ。

「でもなんでこんなとこにいるんだ？」

それが疑問だった。

だからここで自分の最後の記憶をおもいかえしてみると…

…？そうだった！俺は確か工事現場の近くを歩いていて、そしたら
突然上からガシャン？という大きな物音とともに鉄骨の雨が降って
きたんだ！

でもそれは俺に当たる軌道じゃなくて俺の前方にいる女性に当た
りそうだったんだ。

そして、危ない？って思った時にはもう体が動いていた。

俺は女性を突き飛ばし、代わりに自分が鉄骨の下敷きになったはず？

でも俺には意識があるし助かったのか？

仮に助かったとしたらここは…

「…病院、なのか？」

いやそんな分けないと思っ直す。

普通に考えて鉄骨に下敷きにされて生きてる訳がない。ほぼ確実にだ。

だがそれだと自分に意識がある説明がつかない。それじゃあ何だ？
と思っている…

「お主はあのまま死んでたよ」

声が聞こえた。

それと同時に、ああ、このパターンはもしかして、とも思った。

声が聞こえた方向に振り返ると、俺の予想を肯定するかのよう
いかにも神って感じの爺さんと女神って感じの美人がいた。

「あなた、神ってやつか？」

「うむ、因みに名前はゼウスという」

「ふうん、んじゃあその神様がこの場所に俺を連れてきたんだろ

「俺に何のようだ？」

「お主にはな、転生をしてもらおうとおもってな。」

「やっぱりこうなるか。」

「というか死んで、訳のわからないところでいて、神っばいやつに会ったら転生だよな。」

「テンプレだなテンプレ。」

「でも何で俺なんだ？他にも人間なんかいろいろいるだろ？」

「それについてはな、お主はあの時に近くに居たやつを庇って死んだじゃろ？」

「んでそやつがたまたまいろいろと調査のために下界に行っていた神だったのじゃよ。」

「神じゃつたら別に鉄骨に下敷きになる程度じゃ死にやせんのが、そのままじゃとちと不憫に思ってたの、転生させてやるよということになったのじゃよ。」

「ってことは俺はあれか、無・駄・死・につてやつか？」

「うわ〜ないわ〜orz」

「あ、あの…」

「俺が思わずorzになっていると声がかげられる。」

「そちらの方を地に手をついたままに見上げると神と一緒にいた女神っばい人だった。」

「というかよく見てみると何処となく俺が庇った神っばい人に似て」

なくもない気が…

「あの、私の不注意のせいであなただを死なせてしまってますいませんでした！」

どうやら本人だったらしい。

「…まあ、しょうがないですよ。起こってしまったことはもうどうしようもないですし気にしないでいいですよ。」

「えと…怒ってないんですか？」

「別に怒ってないですよ。」

それに女性を庇って死ぬなんておれにとってある意味に本望みたいなもんですから。

だからそんな悲しそうな顔しないでください。

あんたは美人なんだから笑ってた方がいいですよ。（ニコ）

そして言葉とともに頭を優しく撫でてやる

「っっ！／／／はいっ／／／あ、私の名前はアテネっていきます／／」

俺の言ったことに満面の笑みとともに返事を返してくれたアテネ。たださっきと違い顔を赤らめているのはなんでだ？

「…これがニコポ、ナデポ、鈍感、天然というやつか…」

「なんか言ったか？神さん」

「いや、なにも」

神がなんか言ったような気がしたが小さくて聞き取れなかった。
なんだったんだ？

「さて、では話もついたようじゃしそろそろ本題に入るとするかのお主が転生するのは漫画やアニメの世界となるのじゃがあくまで平行世界じゃ。なにかイレギュラーな事態が起こるやもしれん。そこでこちらからもそれに対抗するための力なんかを授けよう。お主に授けるのは、まあ、仮に名前を付けるとしたら『あらゆる事を極める程度の能力』じゃな。これは主に強化と可能性に満ちた能力でな、思考錯誤する事によってアニメなんかの技も使えるようになったりもできる。あとこの能力により限界がなくなり極め続ける事も可能じゃ。」

わーい、それなんてチート？

ぶっちゃけ強すぎね？もうこれで十分だろ。

…でもどうせだったら俺がもらいたかった物がもらえたらよかったな。

俺だっっていままで生きて来てこういう展開を夢見た事なんていくらでもある。

だから自分の考えた力をもらいたかった。

「んーそうか、なら一つだけお主の考えたものを現実としてやろう。」

「あれ？こころ読まれた？いやそれよりも現実にしてやろうって、マジで！よっしゃー？神テラ太っ腹！」

いやーめっちゃくちゃ嬉しいーです！

とするとどの能力にしようかな〜迷っちゃうけど…よし、アレにしよう。

「俺が望むのは名前を付けるなら

『理想の主人公設定で転生する程度の能力』だ。

まあ、説明すると転生、憑依するに当たって理想の設定を着ける事ができる。

例えば、ど えもんののび くに転生するでしょう。の 太くんがバカなのはみんなの知ってるとおりだろう。

そこでこの能力の出番だ、もし俺がの 太くんが天才だったら？と考えた設定があるでしょう。

そして俺がこの能力をもつての 太くんに転生したら、考えた通りに天才になっているというわけだ。」

はいチートです自重はしません

サーセン。

「あいわかった。それじゃ能力を付加しよう。ぶるああああ？」

とそんな若本的な掛け声とともに俺の中で何かが変わったような気がした。

テテテテーン！

というなんかLvが上がったようなBGMとともに『慶は能力を手に入れた』というのが頭に浮かんだ。

当然スルーである。

「これで能力は与えたぞ。では早速平行世界へ送らあ！ちよつとまって？」…なんじゃ？」

「行く前にあんたからもらった能力でどの程度のできるか試したいのと研究がしたいんだけど、問題ない？」

向こうに送られてからだと試す機会がなかなかなさそうだし、何より見つかったらややこしい事になりそうだから…」

「…それもそうじゃな。そういう事ならわかった。それじゃアテネ、めんどろを見てやってくれ。私は戻る。お主も次の世界、楽しんでくれ。」

「はい！よろこんで！よろしくお願いしますね、慶さん。」

「ああ、よろしく。」

…

…

…

…

… 回想終了！

いや、長い回想だった。

まあ、そんな経緯があつて今の俺があるわけなんですよ。

そしてアテネとても良くめんどろを見てくれた。

ホントに2人には感謝感謝だ。

ただ、アテネがこちらを頬を赤らめてなにも考えてなさそうな目で度々見てくるから、なんなんだ？とは思っただけ。

まあそれはおいといて、研究を終えてコッチに来た時は本当に苦

労したよ。

自我のある俺に対して母乳とかオムツとかマジで恥辱以外の何も
でもなかったよホントに。

そしてだんだん慣れていく自分が怖かった。

人間の適応能力とは恐ろしいものだ。

まあ、そんなわけで上条当麻に転生してからよつやく15年、や
つと学園都市デビューを果たしましたわけです。

これから厄介事に巻き込まれる訳だが、

ALL HAPPY END?

これを目標に日野井 慶、改め上条当麻はそげぶしまくる！

さて、まずはトキワに生息するLevel5の電気ネズミをゲッ
トしにいこうかな？

そんなわけで、じゃあな

プロローグ2（後書き）

プロローグ2少し遅くなってしまいました。すいません。

今回は書く事が多くてやや適当になってしまったかもしれませんが。

さて、次回は主人公設定かな？と思っております。

次回もよろしく願います。

主人公設定

転生前

名前：日野井 慶（なほい けい）

趣味：漫画、ラノベ、ゲーム、料理、格闘技など

好きなもの：趣味と同じ

嫌いなもの：歪んだ感情を持つやつ、卑怯の度が過ぎるやつ

能力：『あらゆる事を極める程度の能力』

あらゆる事に対する適性を持つ事ができ、試行錯誤する事によりあらゆる事ができるようになる。

また、あらゆる事を強化でき、強化効率も上がり上限もなくなる。常時発動で、無意識に習得、強化している場合もあり。

『理想の主人公設定で転生する程度の能力』

転生時のみ有効な能力。

簡単に言い換えると転生時にあらゆる設定を付加する能力。または、設定に変化する能力。

能力名は仮です

備考：身長180cm、体重65キロ、服の上からなら触れば明らかにわかるほど筋肉がついている。細マッチョ？

容姿は目が切れ長前髪が若干片目にかかっている。長さは肩にかからないくらい。

イケメンでニコポ、ナデポ、天然、鈍感を習得済み。
転生前もこのせいでいろいろあった。
さらに能力によってより拍車が掛かる。

転生後

名前：上条当麻

趣味：同じ、不幸？

好きなもの：同じ

嫌いなもの：同じ

能力：『あらゆる事を極める程度の能力』

リアルブレイカー
『現実殺し』

左手に宿る力

自然に発生する力を消し去る。

例えば、地面に触れて地面の硬度を消し去れば（0にすれば）硬度がなくなる。

だが、対象が大きすぎる場合に有効範囲がある。

主に触った部分から直径2m。

消し去る対象は任意選択。

イマジンプレイカー
『幻想殺し』の対。

力に段階があり。

イマジンプレイカー
『幻想殺し』

原作の力とほぼ同じ。

『リアルブレイカー
現実殺し』の対。
力に段階あり。

備考：身長175cm、体重62キロ

筋肉的には転成前と同じ

容姿は上条当麻を主体に転生前の容姿が混じった感じ。7：3ぐ
らいの比率。

不幸スキルも合わさって、よりフラグが立つようになった。

主人公は主に幻想殺しと現実殺しを使います。能力で習得した魔
術も使いますがあまり使う事はありません。

主人公設定（後書き）

次回から一話に入ります。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9247z/>

俺が理想の主人公 -魔術と科学編-

2011年12月29日16時45分発行